

第8回ワヤンの実演

満月の夜の

まんげつ

目に見えないもの、

この世でいちばん大切なもの、

それは何なの？——

ふとっちよ娘リムブはひとり旅に出る。

Limbuk



影絵詩劇「満月の夜のリムブ」

2016.9.24(土)

13:30開場 / 14:00開演

※13:30より歓迎のガムラン演奏が始まります。

観覧無料 / 入退場自由 / 全席自由

会場 / 東京家政大学120周年記念館1階 多目的ホール

※家族連れのお客様もいらっしゃいます。会場では、多少お子さんの声が聞こえることがあるかもしれませんが、ご理解くださいますようお願いいたします。

ワヤンの実演 影絵詩劇『ワヤン・ジュパン』

当館では平成19年に特別企画展「影と色彩の魅惑 ワヤン」を開催し、日本ワヤン協会主宰である松本 亮氏が40年かけて収集されてきた膨大な「松本 亮コレクション」の一部を皆様にご紹介しました。また、平成20年・26年・27年には氏が所有するコレクションから、ワヤン人形を中心とした、1,000点を超す資料と1,400冊以上の図書をご寄贈いただきました。

この貴重なワヤンの魅力を皆様を知っていただくため、当館では平成21年より、日本ワヤン協会の協力を得て実演を毎年行っており、今年で8年目になりました。

今回ご覧いただくのは、松本 亮氏による創作ワヤンであるワヤン・ジュパン(日本のワヤン)の「満月の夜のリムブ」です。ワヤン・ジュパンとは、ジャワで影絵詩劇に付けられた呼び名です。日本ワヤン協会では、ジャワ島の伝統的なワヤン・クリ上演のほかに、創作ワヤンの上演も精力的に行い、好評を博しています。



過去の実演の様子

Limbuk

リムブ：ふとっちょの娘

「アタイはどこにも行きたくないんだけどおっかさんが言うの。お前みたいに食っちゃ寝、食っちゃ寝してたら今に神様のバチが当たる。この世の中には目に見えないかもしれないけれど大切なものがある。それを探しに行かなきゃならんのさ、って……。」

Cangik

チャンギ：リムブの母

「ああリムブ！このおばかさん!! お前はどこへ行ってたんだい!？」

Bagong

バゴン：スマルの息子

「この世で一番大切なもの、そんなものがこの世にあるのかなあ？」

Rasksi&Raksasa Hutan

森の怪物夫婦：正体は……?

満月の夜のリムブ

演目解説

「食っちゃ寝、食っちゃ寝ばかりでなく、たまにはお前さんのいちばん大切なものを探しに行ったらどうなんだい」、口うるさい母チャンギの半ば出まかせの言葉に、かわいいふとっちょの娘リムブがものけに憑かれたように、「私にとってこの世でいちばん大切なものは何か」を探すため、ひとりで旅にでます。

彼女は森に入り、トラやワニなどの猛獣に出会い、食べられそうになりますが、彼女が逃げたり戦うなどという気がまったくないのを見て、猛獣たちはむしろ彼女を守ろうとします。つぎには森の怪物夫婦に出会います。怪物たちは猛獣たちにやられ、本来の姿である天界の神に変わります。神は「ここには何も、南の海に行けば何かあるだろうよ」といいます。

一度、村へ戻ったリムブは母のチャンギといっしょに、青い鳥

がとんでいくのを眺めます。母は娘が、この世でいちばん大切なものは何かさがそうと、すごく胸騒ぎしているのを知り、リムブが大人になろうとしているのを感じます。

踊りははじまります。それはリムブの変身の姿です。リムブはまた一人の少女に変身して、ひとりの少年に近づこうとします。思いが高じて一瞬へびにも変身します。

リムブは母や知りあいのスマルおじさんと話しているうちに、やはり、私は南の海へいこう、と決心します。そこには生命の水というものがあるというのです。

リムブはみんなをふりきって、南の大海にむかい、大波のなかへ飛び込みます。はげしい波にほんろうされ、死ぬかと思うのですが、その果てに……。

「満月の夜のリムブ」の中にちりばめられた インドネシアのワヤンの物語



ラーマ王子と魔王ラーヴァナ——ラーマヤナより

村に戻ったリムブがバゴンとこの世で一番大切なものの話をしていなかで「そういえばあれもかわいそうな話だったなあ……。」と持ち出すのはラーマヤナの物語。

天界、人間界を暴れまわる魔王ラーヴァナはウイドワティという女性に恋をし、彼女の魂を求め続けています。ラーマ王子の妻シーター(ウイドワティの化身)をさらい、自分のものとなるように毎日脅迫しますが、シーターは振り向かず、彼を拒絶し続けます。大切なシーターを取り戻すため、ラーマ王子は不死身の魔王ラーヴァナに戦いを挑むこととなります。

武将ビモと「デウォ・ルチ」の物語——マハーバーラタより

マハーバーラタの物語に登場する武将ビモ。マハーバーラタの「デウォ・ルチ」の物語では彼を亡き者にしようとする敵側の総帥ドゥルノの悪巧みにより、全人類が永久に生きながらえることのできる「生命の水」を探しに行くこととなります。

この世に存在するのかすらわからない生命の水を探しに向かった先にビモが出会ったものは……。今回のワヤンの実演「満月の夜のリムブ」はこの「デウォ・ルチ」が下敷きとなっています。物語のなかでリムブはビモに様々な質問をなげかけます。

Semar

スマル：村の知り合いのおじさん

「人間ってのは多かれ少なかれ自分が本当に欲しいものは何か、それが気になる。」



Bima

ビモ：武将



ガムラン演奏をお楽しみください！

ガムランは青銅や竹で作られた打楽器や笛などによる合奏が特徴で、インドネシアを代表する伝統音楽です。本場ジャワ島ではワヤンの上演は、ガムランの前奏曲から始まります。

前奏のあいだ、一晩の上演に思いを巡らしていたダラン（人形遣い）が、ワヤン収納箱を木づちで叩いて開始の合図を伝えると、いよいよ夜通しのワヤンの始まりです。

※ワヤンの上演は本来、ガムランの生演奏で行われますが、今回は録音された音源を使用します。



過去のガムランの様子



表面、裏面、それぞれの魅力。

ジャワ島のワヤンでは、人形操作を行うダラン側が表面で、影絵側は裏面です。現地では多くの人が、影絵側よりもダラン側からワヤンを楽しんでいます。今回のワヤン・ジュパンは影絵側から観るようにつくられていますが、人形操作や幻想的な影絵のしかけもご覧いただけるように、上演中の席の移動も可能です。

※席移動の際は、お荷物をお持ちくださいますようお願いいたします。

タイムスケジュール

13:30……開場 歓迎のガムラン演奏

14:00……主催者あいさつ

14:05……「満月の夜のリムブ」開演 ※上演前後の解説を含め約2時間

16:20……終了

※時間はおおよその目安です。事情により前後することがあります。

キャスト・スタッフ

日本ワヤン協会

脚本・演出：松本亮

人形操作：大和田尚＋松本和枝、西山裕美

語り：空閑麻有良、池谷広大

踊り：川島未来

音楽構成：森重行敏

ガムラン前奏：ランバンサリ有志

演奏：月光楽団（森重行敏、小谷竜一、小林賢直、中辻正）

うた：村上圭子

音響技術：大和田尚

舞台監督：降矢政男

人形制作：キ・スカスマン、中辻正、伝統的ワヤン・ジャワ、バリ、インドほか



博物館のご案内

秋の特別企画展

「西洋服装史Ⅱ

—スタイルとディテイル—

◆期間◆

平成28年10月13日(木)～11月17日(木)

◆開館時間◆

9:30～17:00

◆会場◆

東京家政大学百周年記念館5階 博物館展示室

◆入館無料◆

※詳細はホームページ・チラシ等で順次お知らせします。



アビ・ア・ラ・フランセーズ
フランス 1780年頃



ロブ・ア・ラ・フランセーズ
フランス 1780年頃

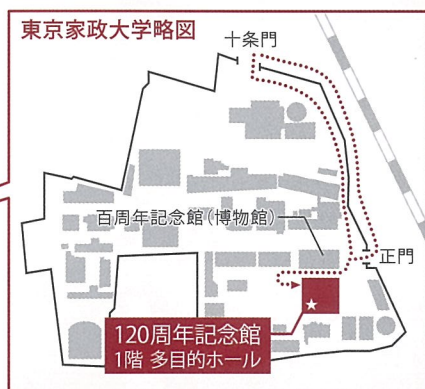
交通案内

◆JR埼京線十条駅(北口)より十条門まで徒歩5分



※十条門より会場まで徒歩3分

※正門におまわりいただくと分かりやすいです



◆お問い合わせ先◆

東京家政大学博物館

〒173-8602 東京都板橋区加賀 1-18-1 Tel. (03)3961-2918

<http://www.tokyo-kasei.ac.jp/hakubutu/>